

吉川雅博 教授 経歴・業績



経 歴

1958年2月生まれ

I 学歴

- 1981年3月 上智大学理工学部電気電子工学科卒業
- 1983年3月 上智大学大学院理工学研究科電気電子工学専攻博士前期課程中途退学
- 1986年3月 上智大学大学院理工学研究科電気電子工学専攻博士前期課程修了

II 職歴

- 1983年4月 上智大学聴覚言語障害研究センター非常勤職員
- 1984年4月 東京都江東区児童学園言語指導講師（非常勤）
- 1986年4月 上智大学大学院外国語学研究科言語学専攻非常勤助手
- 1989年4月 名古屋市総合リハビリテーションセンター
- 1993年4月 東京都心身障害者福祉センター
- 1998年4月 愛知県立大学文学部社会福祉学科専任講師
- 2002年4月 愛知県立大学文学部社会福祉学科助教授
- 2007年4月 愛知県立大学文学部社会福祉学科准教授
- 2013年4月 愛知県立大学教育福祉学部社会福祉学科教授

研究業績

I 著書

- 『日本語の発音指導—VT法の理論と実際—』凡人社、1990年（共著）
- 『障害乳幼児のための発達相談マニュアル 知的発達障害児編』東京都心身障害者福祉センター、1997年（共著）（「第7章 発音に関する相談」を分担執筆）
- 『難聴高齢者サポートハンドブック』日本医療企画、2001年（共著）（「2章 難聴高齢者の気持ちを理解する」「3章 難聴高齢者とのコミュニケーション」「6章 日常生活に役立つ道具と制度」を分担執筆）
- 『聴覚・言語障害教育および外国語教育のためのVTS入門』グベリナ記念ヴェルボトナル普及協会、2002年（共著）（「4章1節 VT法による聴力検査」を分担執筆）
- 『必携障がい者（児）ホームヘルプサービス』日総研出版、2006年（共著）（「2章 障害特性に応じた支援方法 1節 身体障害者（児）の支援」を分担執筆）
- 『社会福祉における権利擁護』放送大学教育振興会、2008年（共著）（「7章 福祉サービスの外部評価」「8章 苦情解決システム」「10章 虐待とDV」を分担執筆）
- 『社会福祉と権利擁護』放送大学教育振興会、2012年（共著）（「7章 サービスの質を高める制度」「8章 サービスの質を高める取り組み」「9章 虐待とDVの防止」を分担執筆）
- 『障がいのある生活を支援する』放送大学教育振興会、2013年（共著）（「1章 障がいのある人」「2章 障がいをめぐる思想」「6章 エンパワメント」「15章 共生社会の実現に向けて」を分担執筆）
- 『障害を知り共生社会を生きる』放送大学教育振興会、2017年

II 論文

- 「日本語の音節頻度調査」『言調聴覚論研究シリー

- ズ第10巻日本語音節の研究』上智大学聴覚言語研究センター、1987年、pp. 55-68 (共著)
2. 「触振動覚による聴覚障害児者の音声知覚と振動器の役割」『聴能言語学研究』第5巻1号、1988年、pp. 22-28 (査読付き)
 3. 「日本語20単音の最適周波数領域決定の試み」『Sophia Linguistica XXV』1988年、pp. 80-90
 4. 「How The Center operation should be to Improve Welfare Level of Community」『BULLETIN of the Tokyo Metropolitan Rehabilitation Center for the Physical and Intellectually Handicapped』1996年、pp. 14-20 (共著)
 5. 「東京都心身障害者福祉センター来所者にみる補聴器に対する誤解」『日本音響学会聴覚研究会資料』1999年、pp. 1-6 (共著)
 6. 「高齢難聴者の補聴器適応を左右する要因とその見極め方法—補聴器を購入する前に検討するポイント—」『愛知県立大学社会福祉研究』第2巻1号、2000年、pp. 25-33
 7. 「補聴器の満足度を左右する要因—デジタル補聴器購入者を対象とした調査結果から—」『愛知県立大学社会福祉研究』第3巻1号、2001年、pp. 55-69
 8. 「補聴器装用者の補聴器の機能に関する理解状況」『愛知県立大学社会福祉研究』第3巻2号、2002年、pp. 65-77
 9. 「聴覚障害や補聴器に関する一般人の知識の実態と高齢難聴者の聞こえの問題に対する支援のあり方」『愛知県立大学文学部論集 (社会福祉学科編)』第52号、2004年、pp. 143-158
 10. 「発した声をきく」『愛知県立大学文学部論集 (国文学科編)』第53号、2005年、pp. 63-73
 11. 「改善志向の福祉サービス第三者評価の試み—評価項目を職員自らが考える手法—」『愛知県立大学社会福祉研究』第7巻、2005年、pp. 83-97
 12. 「福祉サービスを外部が評価する手法の現状と今後の展望」『愛知県立大学文学部論集 (社会福祉学科編)』第54号、2006年、pp. 171-193
 13. 「高齢者の聞こえに関する支援」『愛知県立大学文学部論集 (社会福祉学科編)』第55号、2007年、pp. 157-168
 14. 「障害者を対象とした大学での短期雇用の試み」『愛知県立大学文学部論集 (社会福祉学科編)』第56号、2008年、pp. 139-152

15. 「在宅失語症者への公的派遣サービス創設に向けて」『愛知県立大学教育福祉学部論集』第58号、2010年、pp. 67-81
16. 「失語症者の社会参加促進に向けた支援」『愛知県立大学教育福祉学部論集』第59号、2011年、pp. 27-33
17. 「失語症者のエンパワメントに向けた提案と課題」『愛知県立大学教育福祉学部論集』第60号、2012年、pp. 61-69

III その他

1. ダニエル・リング著『聴覚障害児の早期口話教育』湘南出版社、1988年 (共著・翻訳) (「第5章 アクペディック・プログラム」 pp. 263-372を担当)
2. J. L. ノーザン著『NORTHERN 聴覚言語障害学マニュアル1』岩崎学術出版社、1989年 (共著・翻訳) (「14. 聴覚障害：オージオロジー的所見—聴力検査と耳疾患—」 pp. 127-139を担当)
3. 「ソーシャル・インクルージョン概説」『職業リハビリテーション』第25巻No. 2、2012年、pp. 38-43 (解説)

IV 口頭発表

1. 「『SUBAG』の特性」日本オージオロジー学会第28回学術講演会 (於金沢医科大) 1983年 (共同)
2. 「言語音の認知と内容理解におけるフィルターメカニズムの機能」大学英語教育学会 (於慶應義塾大学) 1986年 (共同)
3. 「聴覚障害児 (者) の聴き取りにおける振動器の役割」第13回日本聴能言語学会学術講演会 (於上智大学) 1897年
4. 「右半球主病変により着衣失行・構成失行などを合併した非右利き伝導失語の1例」第14回日本神経心理学会 (於名古屋市立大学) 1990年 (共同)
5. 「視覚聴覚重複障害者の移動音知覚の評価・訓練—片耳装用と両耳装用の比較—」日本聴覚医学会第35回学術講演会 (於慶應義塾大学) 1990年
6. 「視覚聴覚重複障害者の方向覚の評価・訓練」日本聴覚医学会第36回学術講演会 (於宮崎医科大学) 1991年
7. 「更生相談所来所者に対するSTが行う福祉サービスの必要性—聴覚障害者の場合—」第18回日本聴能言語学会学術講演会 (於新潟大学) 1992年

8. 「視覚聴覚重複障害者の補聴器装用時の方向感の改善」日本聴覚医学会第37回学術講演会（於東京学芸大学）1992年
9. 「右手の反応に限定された左半側無視の1例」第16回日本神経心理学会（於大阪大学）1992年（共同）
10. 「精神年齢と構音発達—精神発達遅滞児を主として—」第39回日本音声言語医学会（於金沢医科大）1994年（共同）
11. 「コミュニケーション手段としての利用を目的としたワープロ指導の経過—脊髄性筋萎縮症児の場合—」第22回日本聴能言語学会学術講演会（於東北大学）1996年
12. 「東京都心身障害者福祉センターの来所者にみる難聴老人の実態」第25回日本聴能言語学会学術講演会（於調布市文化会館）1999年（共同）
13. 「ホナックデジタル補聴器『クラロ』の装用感調査」日本聴覚医学会第45回学術講演会（於愛知医科大学）2000年（共同）
14. 「聞こえの問題を抱える高齢難聴者に対する支援—聴覚障害と補聴器についての理解に関する調査結果より—」日本社会福祉学会第51回全国大会（於四天王寺国際仏教大学）2003年
15. 「支援困難テーマを使った福祉サービス自己評価の試み」日本社会福祉学会第52回全国大会（於東洋大学）2004年
16. 「聞こえに対する高齢者本人の認識の実態からみた支援」日本社会福祉学会第54回全国大会（於立教大学）2006年
17. 「人工内耳装用児へのヴェルボトナル・メソッドの適用」第33回日本コミュニケーション障害学会（於鶴見大学）2007年（共同）
18. 「障害者の職場体験先としての大学研究室の可能性」日本職業リハビリテーション学会第35回大会（於北海道大学）2007年（共同）
19. 「大学研究室を対象とした神経症者の就労準備訓練の試み」日本職業リハビリテーション学会第36回大会（於福岡市市民福祉プラザ）2008年（共同）
20. 「QOLが向上した中途視覚聴覚重複障害者の一事例」日本社会福祉学会第56回全国大会（於岡山県立大学）2008年
21. 「公的サービスを想定した失語症会話パートナー派遣対象のガイドライン」第36回コミュニケーション障害学会（於姫路市市民会館）2010年（共同）

22. 「就労準備プログラムとしての職場体験」日本職業リハビリテーション学会第38回神奈川大会（於神奈川県立保健福祉大学）2010年
23. 「失語症者が利用する福祉施設へのコミュニケーション支援」第37回コミュニケーション障害学会（於JA長野県ビル）2011年（共同）

V 助成研究

1. 2009年度～2011年度科学研究費補助金（挑戦的萌芽）「失語症者への個人支援を公的制度化するための基礎的研究」（課題番号：21650140）研究代表者
2. 2011年度～2013年度科学研究費補助金（基盤研究(B)）「人間発達の保障をめざす教育福祉ガバナンスと教育委員会改革に関する理論と実践の研究」（課題番号：23330227）研究分担者

VI 資格等

- ・1999年 言語聴覚士（財団法人医療研修推進財団 第2849号）

VII 所属学会

- ・日本社会福祉学会
- ・日本職業リハビリテーション学会
- ・日本コミュニケーション障害学会
- ・日本聴覚医学会
- ・日本音声言語医学会
- ・日本高次脳機能障害学会

VIII 社会活動（本学赴任以降）

- ・NPO 法人 知多地域成年後見センター 理事長
- ・NPO 法人 みずほ 理事長（高次脳機能障害）
- ・日本職業リハビリテーション学会 運営理事、中部ブロック代表
- ・愛知県福祉サービス第三者評価推進センター 基準等委員会副委員長
- ・愛知県福祉人材センター 運営委員
- ・愛知県高次脳機能障害支援普及事業 相談支援体制連携調整委員会委員
- ・名古屋市障害者・高齢者権利擁護センター サービス調整会議委員長
- ・NPO 法人 あいち福祉オンブズマン

- ・医療、福祉、保健、教育のネットワーク代表 (重症心身障害)
- ・社会福祉法人 1980 監事 (重症心身障害)
- ・社会福祉法人 あじさいの会 評議員 (精神障害)
- ・愛知県失語症友の会連合会 顧問